2014 年春学期レポート

日本財団聴覚障害者海外奨学金事業 第 7 期生 中川美幸

(1) 春学期の履修クラス

2014年春学期は毎日午前中に聾学校の教育実習もあるので、3つのクラスに絞りました。

★ 言語習得と認識発達：Language Acquisition and Cognitive Development

このクラスは言語習得のためのクラスです。私が留学生活で一番学びたかったことなので、とても楽しみにしていました。先ずはクラスでとても面白かったウエブを載せます。聞こえない赤ちゃんがどうやって手話を覚え、何ヶ月で反応を示すか、何ヶ月で表現出来るかが分かり易く載っています。

http://www.handspeak.com/blog/baby/index.php?byte=1

そして、大変興味深いものもあります。子どもたちの会話を見ながら、言語面で議論するのです。本や論文と関連付けながら自分なりの提案をしなければなりません。

http://www.youtube.com/watch?v=hn1naIfR9vU&feature=youtu.be

さらに、クラスの中で実習先の生徒を一人選び、彼女の言語の発達を観察するレポートを書きました。英語の評価表を読み、英語の資料を読み、彼女の実際の言語レベルを観察するのです。ケンダルろう学校の評価表やギャロ大学の評価表が、それぞれ違うので勉強になります。どうやって評価するかのウエブサイトを探したのですが、見つからなかったので、代わりにクラスで研究したビデオを御覧ください。

また、小さい男の子が絵本を読みながら手話で話しているのですが、それを皆でどんな発達があるのか、言語の発達とどう関係あるかを話し合うのです。

https://www.youtube.com/watch?v=ora5FWH7Mxo&feature=youtu.be

このクラスのまとめはグループプロジェクトでした。私たちは、聞こえる両親が聞こえない赤ちゃんに出会い、どう悩むかを考えながら、英語と手話を両方見られるＥブックを作りました。残念ながら、私たちが作成した新しいアプリは、アップルにダウンロードしたソフトでないと見られないものでした。今後は、全国の誰にでも見られるようアレンジ出来たら良いなと考えています。

★ 障害児教育：Teaching Students with Disabilities
アメリカでは、障害学生のために、Individualized Education Program（個別教育プログラム；日本にも個別の教育支援計画があります。）を作成することが法律で決まっているため、家族はその計画に不満を持ったら、弁護士を呼んで裁判を起こすことが出来ます。日本では考えられないですね。
また、障害児に対して、障害を持つ大人がどういう生活をしているのかを教える必要があるのですが、この記事はとても面白かったです。日本にもおしゃれな障害者達の写真集があったので、活用したいと思います。
http://www.nytimes.com/2007/05/13/fashion/13disabled.html?pagewanted=all&_r=0

このクラスは、毎週必ずインターネットで学習を進めながら参加するのですが、議論に参加するための資料を読みながら、オンライン学習を進めるのは結構大変です。でもとても勉強になります。参考にどうぞ。
http://iris.peabody.vanderbilt.edu/

クラスの宿題で:Including Samuel”という映画を観てレポートを書くのですが、この映画はとても良かったです。色々な障害を持つ生徒や大人が登場します。時間があったら観てみて下さい。
http://www.includingsamuel.com/home.aspx

クラスで参考になった本
“The short bus”
http://www.amazon.com/The-Short-Bus-Journey-Beyond/dp/0805088040
筆者本人も障害を持っており、彼が様々な障害者と出会い、「普通」、「普通じゃない」ことについて考えさせられる本です。ただ、クラスメートから「ニ

ューハーフが出るのはおかしい。彼らは障害者じゃないんだ！」という意見があり、色々な見方が有るということを学びました。ご参考まで。

“Riding the Bus With My Sister”
http://www.bookreporter.com/reviews/riding-the-bus-with-my-sister
この本は精神薄弱者の妹を持つ姉の実話なので、とても興味深かったです。姉は妹と疎遠でしたが、バスの旅に付き合っている間に、妹を理解するようになったのです。妹は精神薄弱者ですが、普通に恋愛し、普通に不満も言います。しかし、家族に説得されて不妊手術を受けたために、子供ができません。将来、重複障害のろう児を指導する際に役に立つ本だと思いました。

また、最後のプロジェクトでは幼稚園の指導案に、障害児を入れたらどうするかを調べたり、どう工夫するかをリサーチして発表しました。ギャロ大学にはアッシャー症候群の学生が多く、各方面で調べてみました。アッシャー症候群について調べた内容を発表しました。学生から教えてもらったアッシャー症候群の見方のビデオは、クラスでも評判が良かったのです。

以下のビデオの10:00をご参照ください。
https://www.youtube.com/watch?v=Uyf_RBCsgGY&feature=share

以下のビデオも見つけました。日本語なので見やすいかと思います。しかも、アッシャー症候群の見方も載っています。
https://www.youtube.com/watch?v=ejcPC_XsfbM

★ 様々な学習者のための家庭、学校、そしてコミュニティのコラボ―ション：Home, School, and Community Collaboration for Diverse Learners
クラスの先生と皆で黒人や移民のために活動をしてきた弁護士 Mr. Morris Deesの講演を聞きに行きました。彼は白人ですが、田舎の学校の先生や父親が、アメリカ人として市民の権利のために戦ったので、アメリカの市民はみんな平等であると説明していました。移民であれ、アメリカに住んでいる以上は、市民としての権利があるということを学びました。また、このクラスでも映画を

観てレポートを書くのですが、この映画 “Our Sprit Can’t Speak English” はとても勉強になりました。アメリカの先住民が彼らの文化、言語、誇りを奪われたのです。私達ろう者も共通するのではないかと思いながら観ました。生徒の多様性、平等について考えさせられます。
http://www.youtube.com/watch?v=GqI0ga1wKcQ

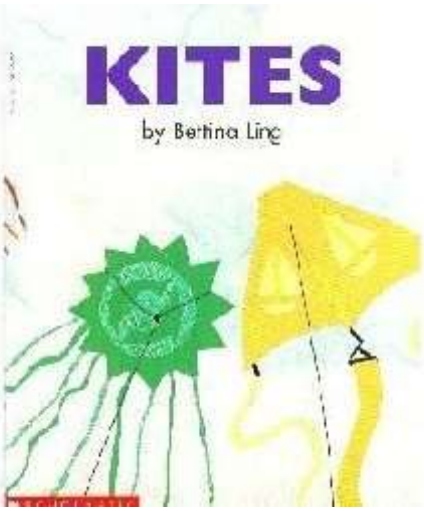
クラスで考えさせられた本
“The spirits catches you and you fall down”
http://us.macmillan.com/thespiritcatchesyouandyoufalldown/AnneFadiman
この本はラオスのモン族の女の子がてんかんをもっているのですが、移民した先のアメリカで何度も発作を起こし、薬や手術を認めないモン族と薬や点滴を勧める医者との衝突で、結局その女の子は植物状態になり、30歳で亡くなりました。文化の違いの犠牲者になった赤ちゃんがいるということを知らしめた本です。

このクラスは宿題が多かったのですが、学期の前半はろう学校や難聴学級のサービスを観察しレポートし、学期の後半はクラスメートと移民について調査して新しいウエブページを立ち上げて発表しました。これはとても勉強になりました。こちらアメリカに来て、パワーポイント以外を沢山学ぶことになるとは思いもよらなかったので、とても楽しいです。私は日本人の移民について調べましたが、中国人の移民とはかなり違うので勉強になりました。調べてみて驚いたことに、アメリカ留学の漫画が昭和２年に描かれ、その後英語版がアメリカに渡ったのです。日本の漫画の凄さを感じました。
http://www.amazon.co.jp/The-Four-Immigrants-Manga-Experience/dp/1880656337
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%A8%E5%B1%B1%E7%BE%A9%E5%96%AC

私たちが使ったウエブページ（Weebly）

★教育実習：Practicum & Seminar

1月からギャロデット大学のケンダルろう学校で教育実習が始まりました。この実習を始める前に、TBテストを受ける必要があるのですが、私はパスしませんでしたので、病院でレントゲンを撮ってくださいと言われました。ADA法があるにもかかわらず、病院での手話通訳手配を2回も断られ、簡単に進まないということを知りました。教育実習で私が担当することになったのは、2歳児クラスです。全部で8人います。みんな第一言語はスピーチ言語であり、アメリカ手話はまだ出来ないそうです。先生が2人、アシスタントが1人います。毎日、言語療法士、聴覚療法士も来ています。最初の日はみんなで雪の中のくまさんをイメージした作品をつくり、楽しみました。この実習ですばらしいと思ったのは、幼稚部の主事です。本当によく見に来て、沢山アドバイスしていきます。そのアドバイスが的確で、納得のいくものなので、毎回ながらあ然としてしまいます。例えば、今日一日中Aくんが泣いていました。彼女はそれを観察して、私達に言いました。「お母さんとちゃんとしたお別れをしていないから、明日からは試してみましょう。ここ幼稚部をAくんにとって安全だ！と思える場所にしましょう。」その1ヶ月後、彼はお母さんにちゃんと挨拶をして、バイバイ出来るようになったのです。春になると、季節というテーマを基に色々な遊びをしました。最後の絵本読み聞かせも担当しました。本の題名は「凧」でしたので、日本でもそうしたように、色違いの様々な形の凧を作り、実習最後の日に生徒たちに色々な形の凧をプレゼントしました。



クラスで読んだ凧の絵本

さらに、親のためのワークショップにもいくつか参加させて頂きました。特に、親のろう理解、手話から書き言葉への工夫は、大変勉強になりました。

実習で驚いたことは、早期教育部と幼稚部はろうの先生が本当に多いのです。フリーモントろう学校でも同じです。また、両親もギャロデット大学に通っている現役の学生が多かったです。さらに、ケンダルろう学校にはアパートが有り、海外や遠い州からの家族も住めるように配慮されています。
私たちは、この教育実習から得たものをリサーチし、レポートにするプロジェクトを始めました。私は新しいものを日本に持ち帰りたいと思い、新しいアプリを使ったプロジェクトを考え、それを教授とアドバイザーに相談しながら進めました。今の所は、まだ英語版ですが、これからは日本語版を作っていけたらいいなと思っています。アメリカの素晴らしいところは、多くの手話動画に字幕がついていることでもあり、手話だけの動画もあります。手話だけか、手話と字幕かを選べるのです。日本についても調べてみたのですが、手話動画が少ないという事に気づきました。しかし、日本は東日本大地震をきっかけに、DNNを始め、色々な手話動画が増えてきています。様々な動画を比べながら、聾学校で活用出来るものを作成していきたいです。

毎朝こどもたちが楽しみにしている工作

私が実習した２歳児クラスのこどもたちが読んだ絵本

(2) この半学期で得たもの

★再考と再挑戦

あっと言う間にギャロデット大学大学院での一年目が終わってしまいました。大学院での一年間は、私にとって「再挑戦」の一年でした。新しい出会いをどう活かすのか、どうやって自分の英語力の不足を乗り越え、良い成績を維持していくか、どうしたらクラスについていけるか、色々と悩んだ時期でした。しかし、多くの日本財団の先輩方、スタッフの皆さん、家族、そして、私の大切な友人達に支えられたからこそ、乗り越えることが出来たと思っています。先ほど、講義の内容を沢山まとめたのですが、本当にまとめきれないくらい、多くのことを学ぶことができました。

また、実習を通して、日本とアメリカのろう学校について、ろう教員の環境について再考させられ、多くのことを学ばさせて頂きました。

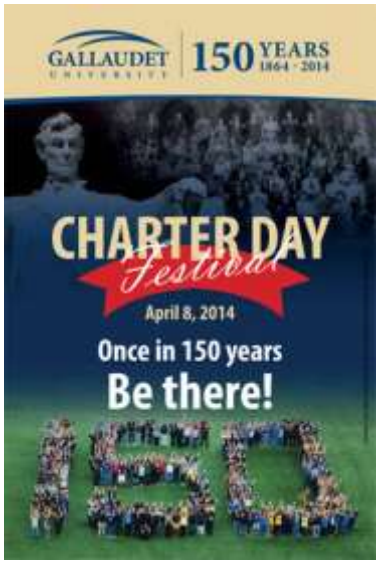
★ 早期教育サミット

この春休み、カンザス州の早期教育サミットに参加してきました。留学生活で初めての研修です。カンザス州立ろう学校で開催され、大学生は数人しかいなくて、ほとんどがろう学校の先生、大学の先生、アメリカ手話の先生、スクールカウンセラー、メンター、アシスタントが100人以上集まっていました。私は早期教育が専門だったので、色々な話し合いに参加させて頂きました。大変興味深かったのは、リズム表現です。手話の語彙に合った指導方法をしており、日本でもシェアしたいと思いました。算数の評価はとても難しく、ケーススタディでも苦労しました。でも、今クラスで言語の評価方法に苦労させられているので、このワークショップに参加してよかったです。

http://www.bilingualece.org/summit/about-the-summit

★ギャロデット大学創立150周年記念式典のための宣伝カード

先日ポストカード用の撮影で、150人で大きな人文字を作る際、一番前に立ちました。その完成したポストカードが届きましたので、ご覧下さい☆



★ 初めてのアパート生活

アメリカでの初めてのルームシェアです。８人のルームメイトと同じ家を共有して生活します。（ルームメイトはアメリカ人が多いのですが、たまには国際学生も。今は南米と私だけが国際学生でした。）ここは日本と同じように、Deposit（保証金）を払います。綺麗に使えば戻ってきます。そして、学生寮とは異なり、水道やガス、電気代は使えば使うほど高くなってしまうので、暖房機器を使わないでほしいと言われました。元々、石川県生まれで寒さには慣れていたので、生きていくことができました（笑）古いアパートなのでハプニングが毎日起こります。突然水道が壊れてしまい、キッチンの床が水浸しになったり、トイレのドアノブが外れて、使えなくなったり、ゴギブリが沸いてきたりします。でも、このシェアでアメリカ手話や議論のやり方、清掃のやり方などを学ばせて頂いています。

★初めてのアルバイト

家族の病気で日本に毎年一時帰国するために障害学生サービスセンターでアルバイトをはじめました。様々な障害学生が来るので、とても勉強になりました。障害学生だけでなく、うつ病、エイズの方もサービスを受けられるのです。サービスというのは、例えば、点字や触手話の手配、学習障害などの生徒のための時間延長、うつ病などの学生のための障害者専用カウンセラーとの面談など多くの支援を行なっているのです。滅多にない機会なので、勉強になりました。

★ 知人の死

2014年3月末に、同じ寮でもあり、時々カフェで一緒に食事していたろう学生が亡くなりました。日本が大好きで、日本語も日本手話も堪能な人でした。まだ23歳という彼の早すぎる死にショックを受けましたが、彼は日本が大好きだったからこそ、日本に帰ったら、彼に色々なことを伝えたいと思います。

http://rememberinggio.wordpress.com/category/gios-writing/

(3) 2014 年秋学期に向けて

2014年春学期は本当に多くのことを学びました。だからこそ、2014年の夏休みは秋学期に向けて、日本で色々なことを吸収し、アメリカと比べてみたい、大学院での勉強のパワーにしていきたいと思い決めました。一つは、日本のろう社会の素晴らしさを見てくること、二つ目は日本のろう学校の様子を見てくることです。私の一番の目的でもあるろう学校見学ですが、留学で学ぶには、日本のろう学校の現状を知っておかなくては意味がないのです。だから、今年も見ておこうと決めていました。そして、どのろう学校も課題があるということを強く感じました。アメリカでは教師が異動する義務は有りません。しかし、各都道府県のろう学校は、数年で異動しなければならないのです。聞こえない、聞こえにくい子供たちにとっては、手話などのコミュニケーションツールも使え、子供たちの聞こえや環境をよく理解する先生たちが必要なのです。しかし、その先生たちも定期的に他の特別支援学校へ異動してしまうのです。ある保護者から言われました。「ろう学校を変えていくためには、都道府県も変えていくしかないのかな」と。ろう教育を根本的に変えていくためにも、教師、生徒、保護者、そして、ろう者たちで話し合っていく必要があるのでは、と感じました。

夏休み中に日本のろう学校視察を終えた上で、私は 2014 年秋学期も自分なりに時間を調整しながら、第一希望でもあるメリーランド州フレデリックろう学校での実習の中で、色々なことを学びたいと思います。